



日本コミュニケーション障害学会
Japanese Association of Communication Disorders

第38回

日本コミュニケーション障害学会 学術講演会

予稿集

The 38th meeting of Japanese Association of Communication Disorders

大会
テーマ

コミュニケーション障害児者の参加

会期

2012年5月12日(土)・13日(日)

会場

県立広島大学三原キャンパス

会長

吉畑 博代 県立広島大学 保健福祉学部
コミュニケーション障害学科

第38回

日本コミュニケーション障害学会 学術講演会

予稿集

The 38th meeting of Japanese Association of Communication Disorders



コミュニケーション障害児者の参加

会 長：吉畑 博代 (県立広島大学 保健福祉学部
コミュニケーション障害学科)

主 催：日本コミュニケーション障害学会

会 期：2012年5月12日(土)・13日(日)

会 場：県立広島大学三原キャンパス

第38回日本コミュニケーション障害学会学術講演会の 開催にあたって

日本コミュニケーション障害学会第38回学術講演会

会長 吉畑 博代

東日本大震災による甚大な被害から1年が過ぎましたが、今も生々しい映像が放映される度に心が痛みます。その一方で、被災された方々の前向きな姿やさまざまな支援活動からは、人がもつ力のすばらしさを改めて実感させられます。

同様に、思いがけず病気になりコミュニケーション障害を持った方、また発達のスピードや様相が異なるお子さんやそのご家族においても、当事者自身の力と周囲にいる人々の力とが協働しその時々の問題に対処することで、その人らしい日々を過ごしていくことができるのではないのでしょうか。

しかしながら、近年では早期のリハビリテーション成果が求められており、コミュニケーション障害児者を長期に支援し続けることが難しくなっています。機能障害面への訓練が重要であることは言うまでもありませんが、長期的な視野から、生活を見据えた関わりを行うことによって、適時適切な支援ができると考えられます。しかし現実には、言語訓練の終了を告げられて途方に暮れた、言語訓練を受けても社会参加の場が見つからないという話を、失語症の方からお伺いすることがあります。

そこで、今回のテーマを「コミュニケーション障害児者の参加」としました。言語機能面への訓練のみならず、生活や社会への参加という幅広い視点から、コミュニケーション障害児者への支援のあり方を考えたいと思います。

上記の大会テーマを受けて、2つのシンポジウムを用意しました。1日目には「発達障害のある子どものコミュニケーション支援」として、長期的視野からコミュニケーション障害児にどのような支援が大切かを考えます。2日目には「失語症者の参加」と題して、失語症者が職場や地域で役割を担い、他者や社会と関わり続けていくために必要なことを考えます。

また3つの教育講演を行います。1つめは精神科医師で笑い療法士でもある阪口周二氏による「笑うこと、泣くこと」です。我々が日々の臨床を行うにあたり、大切な態度などについてご講演いただきます。2つめは神戸大学大学院保健学研究科客員教授の関啓子氏による「STが脳卒中になってわかったこと」です。ご自身のご病気の体験を通じて、STが大切にすべき視点などをお話いただきます。3つめは国立精神・神経医療研究センターの神尾陽子氏による「自閉症スペクトラム障害の早期発見 —ライフステージにわたる支援のために—」です。ライフステージという観点から、早期発見の大切さをご講演いただきます。さらに実践に役立つ2つのセミナーも企画しました。

学術講演会初日の夜には懇親会を行います。三原の名産を味わいながら、親睦を深めていただく予定です。会期中は、会場となる県立広島大学周辺の新緑鮮やかな景色と、眼下に見渡せる瀬戸内海をお楽しみください。本学術講演会が、皆様方の日々の業務に少しでもお役に立つことができれば幸いです。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第38回日本コミュニケーション障害学会学術講演会によせて —瀬戸内風景変転

日本コミュニケーション障害学会

理事長 大井 学

三原という街は訪れると複雑な思いにとらわれる場所の一つだ。1980年前後に松山で過ごした7年間のほとんどは、港が自宅に近かったので、瀬戸内海を渡り、三原経由新幹線で関西によく通った。いったいどういう手段なのか、今どきの人は首をかしげるだろう。1975年に松山－三原間に高速(といっても時速40から50ノット)「水中翼船」が就航した。三原港に着くと、まっしぐらに新幹線駅に早足で向かったものだ。

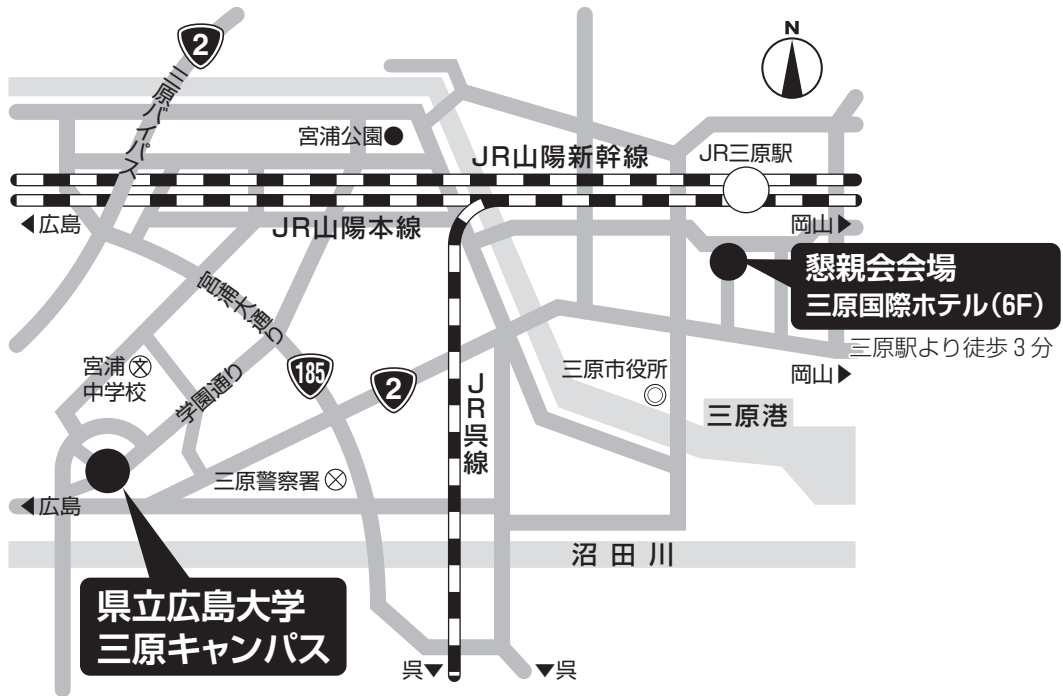
皮肉なことに、同じ年に神戸－鳴門、児島－坂出を含む3本の本四架橋工事が着工した。そして1988年、しまなみ海道、つまり尾道－今治ルートの西瀬戸自動車道の完成と共に、松山－三原の水中翼船は姿を消した。文字通り、私の使い慣れた海の道が忽然と消えた。供用開始された年に瀬戸大橋を渡って、飛び石とされた島に降り立ち、美しかった海岸に見上げるような高いコンクリート柱が突き刺さる無残さに、言葉を失った。こうした国土計画の起源は19世紀末まで遡る。明治以降近代化を追求してきた、なれの果て、一国資本主義繁栄の最後の残照。本四架橋は必要だったのか？

冷戦崩壊後グローバル資本主義が驀進する今、本四架橋はもはや日本経済のお荷物になりつつある。たった30年の命。得たものと引き換えに失ったものとのバランスから学んだ方がいい。3本の大橋は確かに独特の景観と高い利便を提供してはいる。しかし、瀬戸内海の無数の島々を結んでいた海上交通網をずたずたにし、古代の海運を偲ばせる小型フェリー主体のゆったりとした船旅という光景を一気に絶滅寸前に追いやった。人々の気質も変わった。橋のない時代、四国の農水産物は地消せざるを得ず、都会からの通勤族には信じられない安値だった。橋ができて、良質な産品は本州に吸い上げられ始め、いまや全国に行きわたる「養殖魚」は、なお薬漬け状態の疑念が消えない。

一国資本主義で蓄積した富が今海外に流れる。若者は国内に職がなく、就活砂漠をさ迷う。高齢者産業が異様な活況を呈し、交通便利地にケアハウスが林立する、団塊の高齢化で前代未聞の激変が始まっている大都会の風景には希望がない。瀬戸内沿岸は？ここには希望がふさわしい。日本経済再建の一つの選択肢となる高付加価値型農林水産漁業と世界にまれな風光明媚への海外観光客誘致、直島の地中美術館に象徴される国際的ブランドを生み出すポテンシャル。新たなライフスタイルが生まれ出るだろう。教育・医療によって、生まれてから死ぬまで、人の金太郎あめ化を目指して全力をあげる現代社会。個性を幸福の要素とする方向にいずれ振り子が振れる。瀬戸内沿岸の発達障害や高齢の姿は、大都会のそれとは大きく変わっていくだろう。そして人々のコミュニケーションも。

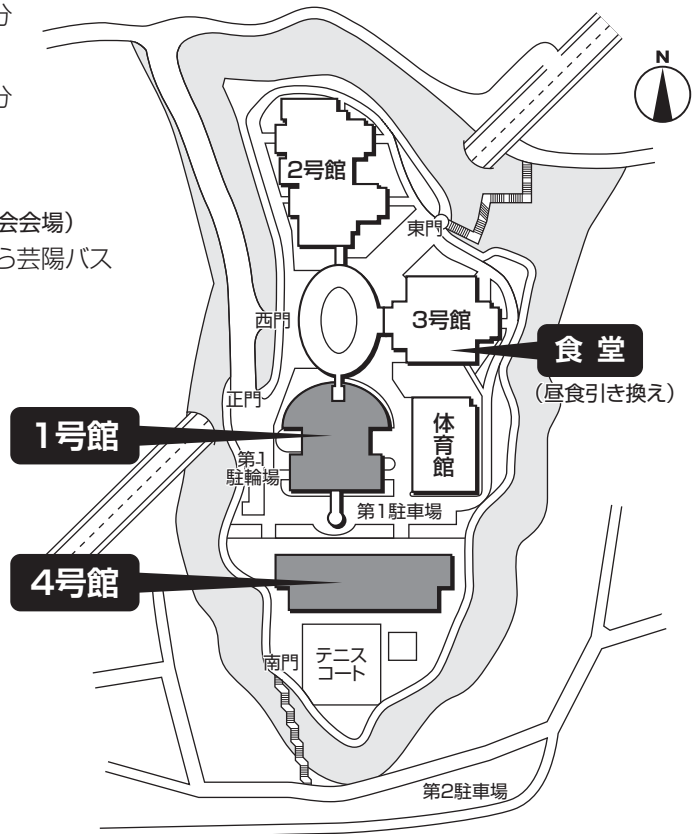
水中翼船自体は今も本四架橋から外れた瀬戸内海の島々と三原を含む沿岸都市を結ぶ。三原が、古代そうであったように、新しい海上交通の要衝としての輝きを増す日は遠くない気がする。学術講演会参加者には春の瀬戸内沿岸に漂う暖かさ、そこに潜むコミュニケーションの未来への希望のよすがを体感していただければと思う。

交通案内



- JR広島駅～JR三原駅
山陽新幹線「こだま号」で約30分
- JR岡山駅～JR三原駅
山陽新幹線「こだま号」で約45分
- 広島空港～JR三原駅
リムジンバスで約40分
- JR三原駅～三原キャンパス(学会会場)
JR三原駅南口バス5番乗り場から芸陽バス「頼兼線」に乗車(約15分)
「県立広島大学」(終点)下車

※バスの便が少ないので
ホームページで確認してください



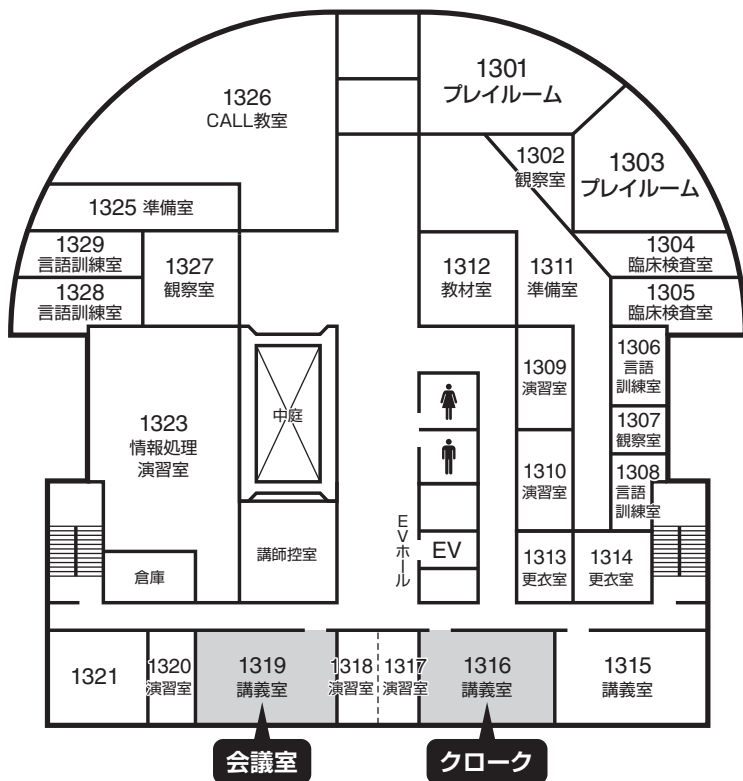
会場案内

1号館

1F



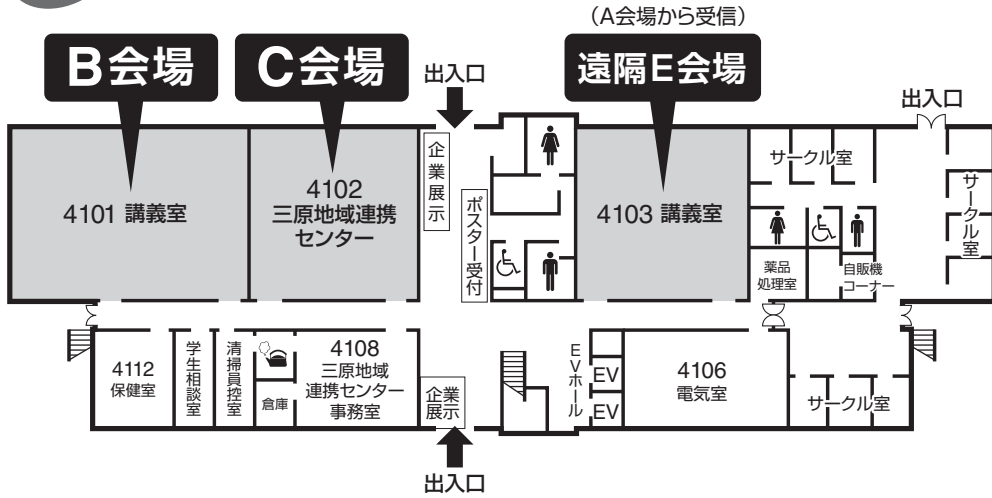
3F



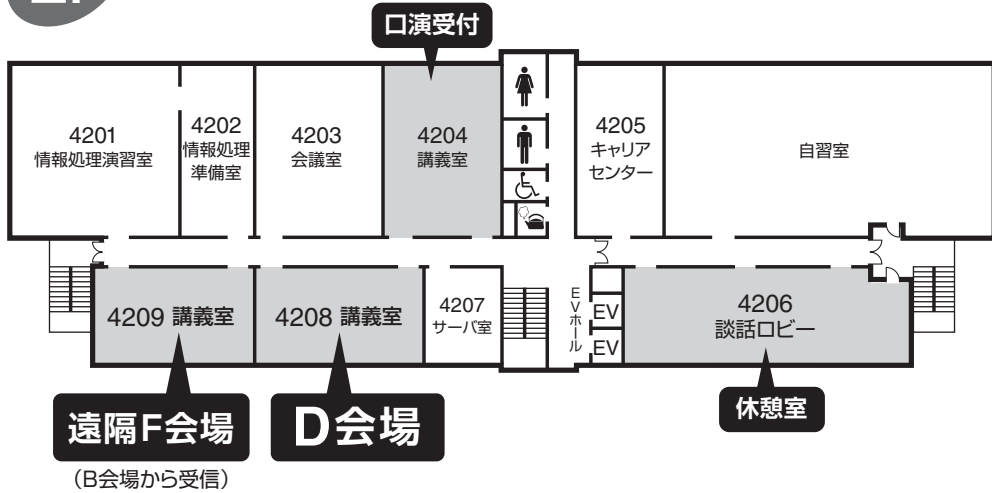
会場案内

4号館

1F



2F



ご 案 内

■ 受 付

1. 受付は5月12日、13日ともに8時15分より行います。
2. 参加費および懇親会費は次の通りです。

会 員	8,000円
非 会 員	2日 8,000円(+予稿集代1,000円)
	1日 4,000円(+予稿集代1,000円)
学 生	3,000円(+予稿集代1,000円)
懇親会費	4,000円(事前申し込みについて 5. 懇親会をご覧ください)
3. 当日、別に予稿集がお入り用の方には、受付にて1冊1,000円で販売いたします。

■ 進 行

【口頭発表】

1. 座長の先生へ

- (1) 担当当日に総合受付で「座長受付」をお済ませください。
- (2) 開始予定の10分前には、次座長席にお着きください。
- (3) 1演題の発表は7分、討議時間は3分です。
- (4) 質疑応答では、発言者の所属・氏名を確認してください。

2. 演者の方へ

(1) 演者受付について

1号館1階の総合受付で学術講演会「参加受付」をお済ませの上、発表群開始30分前までに4号館2階(4204)で「口演受付」を行ってください。なお、午前最初の群で発表される方は、時間の都合上、口演受付を済ませてから参加受付を行ってください。発表開始予定の10分前には、次演者席にお着きください。

(2) 発表用データについて

- ① 口頭発表はPC(Windowsのみ)による発表となります。
- ② PC(Windows XP)は学会で準備いたします。
- ③ 演者の方は発表データをCD-Rでご準備ください。
 - ※ USBメモリスティックは、コンピュータウイルスの媒介になるケースが多いため、CD-Rに限らせていただきます。ご理解をお願いします。
 - ※ また、CD-RW、MO、その他のメディアも受け付けられませんので、ご注意下さい。
 - ※ 動画を使用される方は、次ページ⑧もご覧ください。
- ④ 今回ご用意しておりますコンピュータのOSとアプリケーションは以下の通りです。

OS: Windows XP Professional SP3
プレゼンテーションソフト: Microsoft PowerPoint Viewer

 - ※ PowerPoint Viewerは、Microsoft PowerPoint 98以降のバージョンで作成されたプレゼンテーションを表示できるソフトです。このソフトは表示専用で編集はできませんので、学会当日会場で編集をされたい場合は、ご自身のPCにてお願いします。さまざまなバージョンのPowerPointが利用されている現状を考慮の措置です。ご理解をお願いします。

- ⑤ ファイル名・フォルダ名の付け方について
ファイルの取り間違えを防ぐために、ファイル名の付け方を統一させていただきます。
[演題番号 発表者の姓] 例) 演題番号 Z-9, 三原太郎さんの場合[Z-9 三原]とします。
- ⑥ 文字化けを防ぐために、下記の OS 標準フォントをお使い下さい。
日本語：MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝
英 語：Arial、Arial Black、Century、Century Gothic、Times New Roman
※ Windows Vista における日本語標準フォントである「メイリオ」のご使用はお控え下さい。
Windows XP 環境では他のフォントに置き換えられるため、レイアウトが崩れることがあります。
- ⑦ 音声記号を表示されたい場合
音声記号のフォントの多くは「特殊文字」であり、PC が異なると文字化けする可能性が高くなります。音声記号を表示されたい場合は、ご面倒ですが文字を画像として貼り付けてください。
- ⑧ PowerPoint に動画ファイルをリンクする場合は、必ずパワーポイントのファイルと動画のファイルを1つのフォルダ内に保存した上でデータを作成願います。CD-R にコピーする場合には、フォルダ全体をコピーしてください。
フォルダ名は、⑤の方法に従って付けてください。また、動画ファイルは「Windows Media Player11」にて再生可能なものに限り。念のため、ご自身の PC をバックアップとしてご持参されることをお勧めいたします。

(3) 動作確認について

- ① 発表のデータの入った CD-R をお持ちいただき、「口演受付」で動作確認を行って下さい。
- ② 発表用データ (PowerPoint) は、いったん受付用パソコンにコピーし、動作確認後各会場の PC のデスクトップにコピーします (コピーした発表用データは、学会終了後、事務局が責任をもって破棄します)。

- (4) 口演受付に所定の時間までにお越しになれない場合は郵送受付をいたします。発表用データを CD-R に入れ、ラベルに演題番号・演題名・発表者名を明記して下さい。また、封筒の表面に「発表データ在中」と朱書きして下さい。受取を確実に行うために、送付されましたら jacd38mihara@yahoo.co.jp までご一報ください。

郵送受付：4月27日(金)必着

郵 送 先：〒723-0045 広島県三原市学園町1-1

県立広島大学保健福祉学部コミュニケーション障害学科

第38回日本コミュニケーション障害学会学術講演会事務局

(郵送の場合の動作確認は事務局で行いますが、動作不良については各発表者が責任を負うものとします。)

(5) 口頭発表について

- ① PC の操作は各演者ご自身でお願いします。操作支援・補助が必要な場合は「口演受付」にてご相談ください。
- ② 映写面は1面のみです。
- ③ 発表時間は7分、質疑応答は3分です。
発表終了1分前と終了時に合図をいたしますので、終了時間を厳守して下さい。

3. 質疑応答

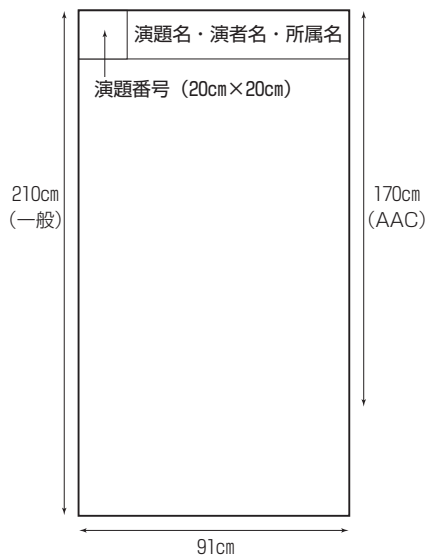
- (1) 質疑応答の時間は1演題3分です。
- (2) 質疑応答は座長の指示に従ってください。
- (3) 発言者は最初に所属・氏名を述べてください。

【ポスター発表】

1. 演者の方へ

(1) ポスターの掲示作業について

- ① 1号館1階の総合受付で「参加受付」をお済ませの上、4号館1階で「ポスター受付」を行って下さい。
- ② ポスターは4号館1階のC会場または2階のD会場に展示していただきます。学会が用意した所定のパネル(幅91cm×床からの高さ240cm:1面)に貼り付けて下さい。掲示用の押しピン類はポスター受付に用意いたします。
- ③ ポスターの貼り付けは1日目の8:15～11:00までの間にお願いいたします。
- ④ 演題番号はパネルの左上に予め貼り付けてあります(約20cm×20cm)。その横のスペースに演題名、演者名、および所属名を記載して下さい。それ以外のスペースは、パネルからはみ出さない範囲で、ご自由にお使い下さい。貼り付け可能な範囲は、幅91cm、縦約210cmです。ただし、M群 AAC 演題については、パネルの前に高さ70cm(幅150cm×奥行60cm)のテーブルが置かれますので、ポスター掲示に使える範囲は、幅91cm、縦は170cm以下とお考えください。



(2) 質疑応答について

1日目の16:25～16:55の時間に各ポスター前に待機して下さい。参加者と質疑応答する機会を設けます。この時間帯には、各発表者が責任をもってポスター前に待機しておいて下さい。座長は置きませんので、各自ディスカッションを行って下さい。これ以外の時間帯にも討議を希望される場合は、ポスターと一緒に発表者からのメモを掲示されても構いません。

(3) ポスターの撤去作業について

- ① 撤去作業は、2日目の13:00～15:00までの間に行ってください。
- ② 上記時間帯に撤去されなかった場合は、事務局で廃棄いたしますのでご了承ください。

【学会誌用の抄録原稿】

演者の方は、「コミュニケーション障害学」掲載用の抄録原稿を、以下の要領でご提出ください。

① 抄録テンプレート (Microsoft Word) を学術講演会ホームページからダウンロードしていただき、5月10日(木)12:00までにメールの『添付ファイル』にて、事務局宛にお送りください。

E-Mail : jacd38mihara @ yahoo.co.jp

② 学会当日、演者受付の際「印刷原稿」を口演受付またはポスター受付に2部ご提出ください。添付ファイルの内容と印刷原稿が異なることのないように充分にご注意ください。内容が異なる場合、印刷原稿の内容を優先いたします。抄録は『コミュニケーション障害学』29巻3号(2012年12月末刊行)に掲載する予定です。

■お知らせ

1. 展 示

1号館・4号館1階にて書籍・機器の展示を行います。書籍販売コーナーでは、講演者の先生方の書籍も用意しております。

2. 遠隔配信

4号館1階(4103)および2階(4209)にてA会場・B会場の様子をそれぞれ遠隔配信しており、こちらでも発表の様子を視聴可能です。

3. 昼食および休憩室

昼食の注文は、事前にホームページにてご案内・受付をしております。昼食の引き換えは3号館1階奥の食堂で行います。なお、学会当日は、食堂は営業しておりませんが、11:00～15:00まで使用できますので、昼食を持参の方もこちらでお召し上がりください。また、会場周辺には昼食店舗が非常に少なく、土日でもあり限られておりますのでご注意ください。

4号館2階の談話ロビーでは簡単なお茶・コーヒーなどを用意しております。

4. 託 児 室

託児室を設置いたします。事前予約が必要です。託児をご希望の方は、ホームページをご覧ください。託児室は1号館3階です。

5. 懇 親 会

12日(土)19:00から21:00まで、三原駅前の『三原国際ホテル』6階にて懇親会を行います。会費は4,000円です。参加者同士が親睦を深める良い機会ですので、多数の方の参加をお待ちしております。懇親会に参加希望される方は、氏名・所属・連絡先を事務局までお知らせください。

E-mail : jacd38mihara @ yahoo.co.jp

6. 役員会、委員会

常任理事会	5月11日(金)17:00～20:00	1号館3階
役員会	5月12日(土)昼休み	1号館3階
学術事業部会議	5月13日(日)昼休み	1号館3階

7. 総 会

日本コミュニケーション障害学会総会が開催されますので、ご出席ください。

日 時：5月13日(日) 13:00～14:00

会 場：A 会場(1101)

8. そ の 他

クロークは1号館3階(1316)にあります。

学会本部は1号館1階(1110)です。ご用の方は、総合受付においで下さい。

車椅子でご参加の方は、事前に事務局までメールでご連絡ください。

■分科会

本学会では、会員の自主的な研鑽を目的として、分科会、委員会、研究助成金の付与などの活動を推進しています。今学会では、以下の分科会を開催します。多くの皆様の参加をお待ちしています。

- ① 言語発達障害研究分科会 12日(土)17:00～18:20 B会場(4101)
- ② 吃音および流暢性障害研究分科会 12日(土)17:00～18:20 E会場(4103)
- ③ 重度失語症臨床分科会 12日(土)17:00～18:20 F会場(4209)

日 程 表

第1日目 2012年5月12日 土

	A会場 (1101) 遠隔E会場 (4103)	B会場 (4101) 遠隔F会場 (4209)	C会場 (4102)	D会場 (4208)
8:00	8:15～ 受付開始		8:15～	8:15～
9:00	8:50～9:00 開会の挨拶 9:00～9:40 A群 言語発達・発達(4)	9:00～10:00 セミナー1 「論文の書き方」 大伴 潔氏	ポスター 受付展示 11時まで に展示して ください	ポスター 受付展示 11時まで に展示して ください
10:00	9:45～10:35 B群 吃音(5)	10:05～11:05 D群 発声・発語(6)		
11:00	10:40～11:00 C群 言語聴覚士(2) 11:05～12:05 教育講演I 「笑うこと、泣くこと」 阪口 周二氏		ポスター 展示	ポスター 展示
12:00	12:05～13:00 昼 休 み			
13:00	13:00～14:10 教育講演II 「ST が脳卒中になって わかったこと」 関 啓子氏			
14:00	14:20～16:20 シンポジウムI (小児) 「発達障害のある子どもの コミュニケーション支援」 飯塚 直美氏 大和 さよ氏 關 宏之氏	14:20～15:00 E群 失語症I (4)		
15:00		15:05～15:45 F群 失語症II (4)		
16:00			16:25～16:55 ポスター質疑	16:25～16:55 ポスター質疑
17:00	17:00～18:20 吃音および流暢性障害 研究分科会 E会場(4103)	17:00～18:20 言語発達障害 研究分科会 B会場(4101)		
18:00		17:00～18:20 重度失語症 臨床分科会 F会場(4209)		
19:00	19:00～21:00 懇 親 会 (会場：三原国際ホテル)			
20:00				
21:00				

第2日目 2012年5月13日(日)

	A会場 (1101) 遠隔E会場 (4103)	B会場 (4101) 遠隔F会場 (4209)	C会場 (4102)	D会場 (4208)
8:00	8:15~ 受付開始			
9:00	9:00~9:50 G群 自閉症(5)	9:00~10:00 セミナー2 「統計処理の実際」 久保田 功氏	9:00~	9:00~
10:00	9:55~10:25 H群 摂食・嚥下障害(3)	10:05~10:25 I群 AAC(2)	ポスター展示	ポスター展示
11:00	10:30~12:00 教育講演Ⅲ 「自閉症スペクトラム障害 の早期発見 -ライフステー ジにわたる支援のために-」 神尾 陽子氏	10:30~11:10 J群 高次脳機能障害Ⅰ (4)		
12:00	11:15~11:55 K群 高次脳機能障害Ⅱ (4)			
12:00	12:00~13:00 昼 休 み			
13:00	13:00~14:00 総 会		13:00 ~15:00	13:00 ~15:00
14:00	14:05~16:05 シンポジウムⅡ(成人) 「失語症者の参加」 野副めぐみ氏 久力 周子氏 安井 美鈴氏	14:05~14:45 L群 学習障害・読み書き (4)	ポスター 撤去	ポスター 撤去
15:00				
16:00				
17:00				
18:00				

プログラム

教育講演Ⅰ 5月12日(土) 11:05～12:05 A会場(1101) 遠隔E会場(4103)

司会：福田登美子(前 日本コミュニケーション障害学会理事長)

[笑うこと、泣くこと]

阪口 周二 医療福祉センター倉吉病院 精神科

教育講演Ⅱ 5月12日(土) 13:00～14:10 A会場(1101) 遠隔E会場(4103)

司会：藤原加奈江(東北文化学園大学)

[ST が脳卒中になってわかったこと]

関 啓子 神戸大学 客員教授

教育講演Ⅲ 5月13日(日) 10:30～12:00 A会場(1101) 遠隔E会場(4103)

司会：進藤美津子(上智大学)

[自閉症スペクトラム障害の早期発見 ーライフステージにわたる支援のためにー]

神尾 陽子 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
児童・思春期精神保健研究部

シンポジウムⅠ 5月12日(土) 14:20～16:20 A会場(1101) 遠隔E会場(4103)

司会：玉井 ふみ(県立広島大学)
山崎 和子(県立広島大学)

[発達障害のある子どものコミュニケーション支援]

S1-1 安心感と自己肯定感を高めるためのコミュニケーション支援

よこはま発達クリニック 言語聴覚士 飯塚 直美

S1-2 お互いに歩み寄るといふこと コミュニケーション支援

NPO法人ナチュラルビレッジ 理事長 大和 さよ

S1-3 就労支援の立場から ー彼らは障害者を生きているのではないー

広島国際大学 客員教授 関 宏之

シンポジウムⅡ 5月13日(日) 14:05～16:05

A会場(1101) 遠隔E会場(4103)

司会：西脇 恵子(日本歯科大学附属病院)
吉畑 博代(県立広島大学)

[失語症者の参加]

S1-1 失語症と仕事について考える会 あゆむ会について

川崎市北部リハビリテーションセンター 言語聴覚士、
NPO 法人言語障害者の社会参加を支援するパートナーの会 和音 理事 野副めぐみ

S1-2 失語発症後の人生をその人らしく生きるために
—地域における失語症者への支援—

宮城県失語症地域連絡会「水輪の会」代表世話人 久力 周子

S1-3 失語症者の地域生活参加への支援

千里津雲台訪問看護ステーション 安井 美鈴

セミナーⅠ 5月12日(日) 9:00～10:00

B会場(4101) 遠隔F会場(4209)

司会：吉畑 博代(県立広島大学)

[論文の書き方 —査読者はどこを見るか—]

大伴 潔 東京学芸大学 教育実践研究支援センター

セミナーⅡ 5月13日(日) 9:00～10:00

B会場(4101) 遠隔F会場(4209)

司会：城本 修(県立広島大学)

[統計処理の実際]

久保田 功 近畿大学医学部附属病院

教育講演Ⅰ

〔 笑うこと、泣くこと 〕

阪口 周二氏

医療福祉センター倉吉病院 精神科

司 会：福田 登美子氏（前 日本コミュニケーション障害学会理事長）

5月12日（土） 11：05～12：05

A会場（1101） 遠隔 E会場（4103）

阪口 周二(さかぐち しゅうじ)氏

広島県生まれ。鳥取大学医学部卒業後、九州大学病院心療内科に入局。退局後は一般内科医として大阪、島根、北海道の富良野などで勤務する。その後、精神科に転科して九州大学精神科に入局し、九州内の関連病院で勤務。

7年前に広島に帰郷。広島県福山市の公立学校共済組合中国中央病院で教職員のメンタルヘルスにも関わる。現在は医療福祉センター倉吉病院に勤務している。精神科一般ならびに自律神経症状を中心としたストレス障害が専門。

学生時代からインドや中国を中心に海外へひとり旅に出て、言葉の通じない世界を旅する中で、笑顔の素晴らしさを実感した。現在、“癒しの環境研究会”の認定する「笑い療法士2級」としても講演活動などをし、笑顔のコミュニケーションをライフワークにしている。

笑うこと、泣くこと

阪口 周二

医療福祉センター倉吉病院 精神科

自分の感情を表現しないように指導されている医療関係者や教育関係者が多いようです。その理由は「人前で泣いたり笑ったりするのは、相手を不安にしたり、いら立たせるかもしれない」ということであったり、「客観的でなければ、相手のことを正確に観察できない」といったことのようにです。(自己防衛の方法でもあるように私には思えますけど。)でも、相手の立場としてはどうでしょうか？これが一番大切なことです。辛かったり嬉しかったりした時に、目の前の人表情すら変えない。それで心地よさを感じる人はいないと思うのですが…。プロといわれる人の中には、当り障りのない笑顔や対応を見せる人も多いです。それがプロの証であるとも考えられているようです。でも人間の本能的な勘はテクニックより鋭いものです。相手を観察していたり、マニュアル的に対応しているだけであれば、接する時間が長くなるほど、その裏表に気づかれてしまうことでしょう。結局のところ、感情を表に出さない偽りの自分で接しては、良いコミュニケーションはとれないと思います。

さらに心配なことが二つあります。一つは、偽りの自分で生きているうちに、感情のセンサーが鈍ってしまって、自分の本当の気持ちが分からなくなることです。鈍いことと落ち着いていることは、似ているようで全く違います。もう一つは、そんな自分自身のことを嫌いになってしまうことです。何だかんだ言っても、自分のことを一番良く知っているのは自分自身です。その自分が自分のことを嫌いになってしまったら、幸せになれるはずがありません。普段の生活で充実感を感じるものがなくなってしまう、気持ちがだんだん落ち込んでいきます。それをごまかそうとして、明るく振舞ってみても気持ちは晴れません。そのうちに身の回りの人間関係も悪くなって、健康にも悪影響が出てきます。さらに仕事面でも…という悪循環が起りがちです。

「対人関係の上手い人が教える時が教育効果は最大になる」とキャロル・グレイという人はおっしゃっているそうです。対人関係が上手くなるためには、自分自身と上手くつき合うことが第一条件です。そのために、自分の気持ちを素直に表現することの大切さについて考えていただきたいと思います。特に「笑うこと、泣くこと」について。この頃は笑うことについてはいろいろと広まってきたようです。いろいろな流派やアプローチの仕方があるようです。私自身、「笑い療法士」という資格もとって研鑽しています。ただ、私は精神科医として何人もの人と接しているうちに、泣くことの大切さについても考えるようになってきました。今回は「泣き・笑い」ということの関係性も含めて、私が気づいたことをお話するつもりです。

教育講演Ⅲ

自閉症スペクトラム障害の早期発見 —ライフステージにわたる支援のために—

神尾 陽子氏

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所
児童・思春期精神保健研究部

司 会：進藤 美津子氏（上智大学）

5月13日（日） 10：30～12：00

A会場（1101） 遠隔E会場（4103）

※この講演は臨床発達心理士資格更新研修会として認められています。

神尾 陽子(かみお ようこ)氏

医学博士。京都大学医学部卒業、ロンドン大学付属精神医学研究所児童青年精神医学課程修了、京都大学医学部精神神経科助手の後、米国コネティカット大学(フルブライト研究員)で自閉症研究に従事した後、九州大学大学院人間環境学研究院 助教授を経て、2006年より現職、2010年11月1日-現在 山梨大学客員教授兼務。

第21-22期日本学術会議連携会員、臨床医学委員会 出生・発達分科会および脳とこころ分科会委員、厚生労働省 発達障害情報センター運営委員、環境庁エコチル調査メディカルサポートセンター質問票作成ワーキンググループおよび詳細調査準備ワーキンググループ委員など。

著書(共著/部分執筆)

- 「自閉症」日本評論社(1999)
- 「臨床精神医学講座. 第21巻, 脳と行動」中山書店(1999)
- 「小児・思春期の精神障害治療ガイドライン」星和書店(2001)
- 「現代児童精神医学」永井書店(2002)
- 「発達期言語コミュニケーション障害の新しい視点と介入理論」医学書院(2007)
- 「アスペルガー症候群 歴史と現場から究める」至文堂(2007)
- 「詳解 子どもと思春期の精神医学」金剛出版(2008)
- 「子どもの心の診療医の専門研修テキスト」厚生労働省雇用均等・児童家庭局(2008)
- 「ケーススタディ こどものこころ」日本医事新報社(2008)
- 「児童・青年期の精神障害治療ガイドライン」星和書店(2008)
- 「発達障害とその周辺の問題」中山書店(2008)
- 「ライフサイクルと社会精神医学」医学書院(2009)
- 「専門医のための精神科臨床リユミエール10 注意障害」中山書店(2009)
- 「日常診療で出会う発達障害のみかた」中外医学社(2009)
- 「アスペルガー症候群の子どもの発達理解と発達援助」ミネルヴァ書房(2009)
- 「自閉症: 幼児期精神病から発達障害へ」星和書店(2010)
- 「発達障害の臨床心理学」東京大学出版会(2010)
- 「脳とソシアル: 発達と脳—コミュニケーション・スキルの獲得過程」医学書院(2010)
- 「専門医のための精神科臨床リユミエール19 広汎性発達障害」中山書店(2010)
- 「新・発達心理学ハンドブック」福村出版(印刷中)
- 「The Oxford Handbook of Social Neuroscience」Oxford University Press(2011)
- 「Motion Perception in Autism Spectrum Disorder」Nova Science Publishers(2011)
- 「A Comprehensive Guide to Autism」Springer(in press)

自閉症スペクトラム障害の早期発見 —ライフステージにわたる支援のために—

神尾 陽子

国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 児童・思春期精神保健研究部

近年の疫学研究によると、自閉症スペクトラム障害の有病率は幼児期から成人期までほぼ1-2%とライフステージを通じて一定していることが明らかにされ、実質的に発症率が増加しているのではなく、まだ多くの未診断・未支援の自閉症スペクトラムの児童や成人が存在するという事実には警鐘が鳴らされている。成人期で初めて精神科を受診する自閉症スペクトラム患者の発達歴情報からは、自閉症状を持ちながら未診断なケースの多くは、ことばを話す前の1歳前後から様々な対人交流場面で、その非言語的なコミュニケーションの問題が現れているもののがつかれず、その後、言語発達に伴ってコミュニケーションが改善したように見えてしまい、支援を受けないまま成長した経緯が推測される。

自閉症スペクトラムの症状は、生活環境の変化や対人ストレスがあれば再び顕在化し、人生のさまざまな側面に影響し、QOLを下げるのがわかってきた。こうした現状を踏まえ、わが国でも発達障害の問題は国の重要な施策の一つとして、研究と支援システムの開発と普及、人材育成、啓発などが推進されているところである（発達障害者支援法平成17年施行）。なかでも早期発見と早期支援は自閉症対策の要と言える。

言うまでもなく、自閉症スペクトラムの早期発見は、自閉症スペクトラムのある人々とその家族にとって助けになり、ライフステージを通して、彼らが社会に参加してQOLの高い生活を送ることを目標としている。当日は、幼児や学童、そして成人を対象として私たちが行った研究成果をもとに、早期発見が持つ意味として重要と思われる3点について、述べる予定である。第1に、1歳6ヵ月から2歳の児童にM-CHATを用いて非言語的コミュニケーションの発達をチェックし、自閉症スペクトラムが疑われる子どもの持つニーズへの気づきを高める試みを紹介し、その短期的効果について論じる。第2に、継続した支援への入り口となる、自閉症スペクトラムの早期発見は成人期のQOLを高める影響を及ぼすということについて述べる。第3に、自閉症スペクトラムの児・成人は、対人コミュニケーションの問題に加えて、メンタルヘルスにおいてハイリスクであることを述べ、ライフステージを通して、コミュニケーションの側面だけでなく、情緒や行動にひずみが現れていないかの気づきも含めて、早期発見と継続した支援の必要性について論じる。

シンポジウムⅠ

発達障害のある子どもの コミュニケーション支援

S1-1 安心感と自己肯定感を高めるためのコミュニケーション支援

よこはま発達クリニック 言語聴覚士 飯塚 直美氏

S1-2 お互いに歩み寄るといふこと コミュニケーション支援

NPO 法人ナチュラルビレッジ 理事長 大和 さよ氏

S1-3 就労支援の立場から ―彼らは障害者を生きているのではない―

広島国際大学 客員教授 關 宏之氏

司 会：玉井 ふみ氏（県立広島大学）

山崎 和子氏（県立広島大学）

5月12日(土) 14:20～16:20

A会場(1101) 遠隔E会場(4103)

飯塚 直美(いづか なおみ)氏

静岡県出身。東京大学教育学部教育心理学科卒業。国立身体障害者リハビリテーションセンター学院聴能言語専門職員養成課程修了。横浜市南部地域療育センター・総合リハビリテーションセンター・北部地域療育センター、国際医療福祉大学保健学部言語聴覚障害学科勤務を経て、2000年よりよこはま発達クリニック勤務。2002年9月から2003年7月まで国際ロータリー財団の奨学金で英国自閉症協会に留学。

大和 さよ(やまと さよ)氏

1961年生。二十歳の長女を筆頭に、四人の子どもを持つ母親。12年前に長男がアスペルガー障害、次男が自閉症と診断される。担当医の紹介で同じような子どもを持つ親が集まりナチュラルビレッジとして活動を始める。NPO法人ナチュラルビレッジ理事長。広島県発達障害児(者)支援連携委員会委員、尾道市特別支援教育推進委員会委員、三原市発達障害者支援検討協議会委員、日本自閉症スペクトラム学会会員。

關 宏之(せき ひろゆき)氏

鳥取県生まれ。(社福)日本ライトハウス、大阪市職業リハビリテーションセンター・大阪市職業指導センターを経て、(NPO)大阪障害者雇用支援ネットワーク代表理事、(NPO)全国就労支援ネットワーク事務局長、障害者雇用問題研究会委員(厚生労働省)、社会保障審議会障害者部会委員、文部科学省中央教育審議会教育課程部会委員など。元広島国際大学医療福祉学部教員、現客員。

編著に、「障害者問題の認識とアプローチ」(1994年 中央法規出版)、「わが国の障害者福祉とヘレン・ケラー」(2002年 教育出版社)、「ちびまるこちゃんのヘレン・ケラー」(2003年 集英社)、「就労支援サービス」新・社会福祉士養成講座第18巻(2008年 中央法規出版)など。

安心感と自己肯定感を高めるためのコミュニケーション支援

飯塚 直美

よこはま発達クリニック 言語聴覚士

発達障がいのある子どもとその家族が穏やかで充実した日々を過ごせるように、コミュニケーションという視点からはどのような支援ができるでしょうか。自閉症スペクトラムの子どもたちとの私の日々の関わりを振り返り、考えたいと思います。

支援によって守り、高めていきたいものは、安心感と自己肯定感です。園や学校から「ちゃんとやれていますよ」と言われていても、不安そうにしていたり自分を否定するような発言が目立つのであれば、良い状態にあるとは言えません。子どもが生活の中で不安を感じているとしたら、そのこととコミュニケーションの問題はどう関わっているのか。表面的にはコミュニケーションの問題にみえても、別の認知特性が影響しているのではないだろうか。そうしたことも含めて子どもの能力を客観的に評価し、支援プランを立て、家族や関係機関と連携して支援をしていく必要があります。

安心感を得るためには、自分の周りで何が起きているか、自分はどうすればよいか「わかる」こと、自分の考えや気持ち「伝わる」ことが重要です。そのために子どもへの直接のコミュニケーション指導はもちろん役に立ちますが、周囲の人にコミュニケーションのコツ（その子が確実に理解できる伝え方、表出を補助する手段の使い方など）をつかんでもらうことも重要です。周囲の人がコツをつかんでくれればコミュニケーションの成功率が上がり、伝わらないことによる双方の苛立ちや不安は減っていきます。安心感を土台に、コミュニケーション面の弱点を補う工夫をしたり、何でも一人で解決しようとしなくて然るべき人に援助や助言を求める、といったことを当たり前の生活技術として身につけていけるよう、サポートしていきたいと思っています。自閉症スペクトラムの人たちは、社会的イマジネーションの特徴などにより、自分に何ができて何ができないかを適切に判断できなかつたり、伝えることのメリットあるいは伝えないことのデメリットに気づかず、十分な言語能力をもっているにもかかわらず肝心のことを相談できないことがよくあるからです。

自己肯定感を高めるにはさらに、生活の中で達成感ももてたり、自分の特性が長所として認められているという実感ももてるのが大切です。近年はICTの進歩などにより、誰もが自分のもっている力を生かせる可能性が、飛躍的に広がりつつあります。定型発達（多数派）と発達障がいのある人たち（少数派）の認知特性やコミュニケーションのスタイルに、違いはあっても優劣はありません。お互いがこのことを心に留めて認め合い、努力し合う。そんな日々の積み重ねが当たり前のこととなり、未来へつながっていくとよいと思います。コミュニケーションがその潤滑油となるよう、支援の質を高めていきたいと思っています。

当日は上記内容について、事例のビデオも提示しつつ、お話しする予定です。

お互いに歩み寄るとのこと コミュニケーション支援

大和 さよ

NPO 法人ナチュラルビレッジ 理事長

もともと子ども好きな私は、わが子と思い切り遊ぶお母さんになる予定でした。しかし、我が家にやってきた息子たちは、一筋縄ではいかない頑固者だったのです。

電光掲示板をうっとり眺め、数字や記号を心から愛し、何でも分解してしまう長男は、ものすごくよく喋るのに一方的に知識を並べ立てるだけ。次男にいたってはCMソングは歌うのにまったく会話はできず、母の存在にすら中々気づかない有様でした。

予想もしなかった息子たちを授かり、毎日が不思議な事だらけでした。おもちゃの電車やミニカーを並べ、ただ眺めて楽しそうにしている息子。午前中ずっとバケツに水を溜めて渦巻きを作る事だけに夢中になっている息子。何が楽しいのかわからないまま、なんとか仲間に入れてもらおうと手を出せば、ものすごく怒られたり泣かれたりする毎日。子どもと遊ぶ事に自信を持っていた母を、彼らはあつという間に打ち砕いてくれました。とにかく不思議で、理解できない彼らの行動。もともとミステリー好きの母は、その謎を解明する事に生き甲斐を見いだす事になるのです。

ただ楽しく遊びたいと思っていた母は再び自信を取り戻す為、一見わけがわからない様にみえる彼らの行動の理由がどこにあるのか、何を楽しいと感じ、何を不快と感じているのか、真実を見つけ出す為に観察と推測と証明する日々を送る事となります。そして、「ああ、そうだったのか」と疑問が解決した時に感じる喜びの大きさに、すっかり取り込まれてしまいました。

あれから12年。息子たちと向き合う中で、決して自分自身の固定概念で、息子に限らず他人を判断しない事や、自分のやり方を押し付けるのではなく、まずは相手のやり方を受け入れる事など、多くの通じ合う方法を身につける事ができたと思っています。

末っ子も今では高校生。こちらが受け入れる事で、彼も母の想いを感じ取ろうと、彼なりに母を思いやってくれる親孝行息子に成長してくれました。何もかもわかり合えるとは思っていませんが、今ではお互いに相手が気持ちよく過ごせるよう、歩み寄れる様になってきたと感じています。

現在、親の会の理事長として仲間たちと、同じような悩みをもつ母親たちの支援に取り組んでいます。私たちが活動を始めた頃は、仲間同士で問題解決のヒントを見つけ出す日々でしたが、現在では新しく参加してくる保護者に、それぞれが経験してきたケースを伝える事で、効率よく問題を解決できるようになってきました。そして昔も今も最大の悩みは「コミュニケーション」。まだまだ探求の日々は続きます。

分 科 会

言語発達障害研究分科会

5月12日(土) 17:00～18:20

B会場(4101)

当分科会では、欧米のSLI研究に基づいてさまざまな課題を作成し、事例に実施しながら、日本語のSLI児の臨床像や言語・認知特徴、読み書きの問題との関連などの解明に取り組み、セミナーやワークショップでその知見を発表してきた。今回は、新メンバーがそれらの課題を実際に用いて、どのように子どもの言語の問題をとらえ、指導に生かし、さらに指導教材を発展させたかなど、そのプロセスと結果を発表する。

吃音および流暢性障害研究分科会

5月12日(土) 17:00～18:20

E会場(4103)

吃音におけるクリニカルパスの在り方を考える

ーアセスメントと支援をどう結び付けるかー

吃音の問題は話しことばだけでなく、心理・感情面や社会性・社交性、言語能力などといった様々な要因が絡んでくる。吃音問題の多面性・多様性を考慮したアセスメントの在り方の重要性や海外におけるアセスメントツールの実際については前回の分科会で紹介し、参加者間で意見交換した。

今回は、支援に結びつく吃音アセスメントの在り方についてさらに突っ込んだ議論をしたい。まずは数名の参加者が、吃音のアセスメントと支援とをどのようにつなげているかについて発表し、その後、参加者間で、初回面接時にどのようなアセスメントや情報提供を行い、その結果を臨床計画立案の際、どのように役立てているか、どのような支援方法を用いているか、臨床効果の測定には何をを用いているか、終了の基準は何か、などについて議論をする。このような活動を行うことにより、吃音におけるクリニカルパスの在り方について考えたい。

重度失語症臨床分科会〈症例検討会〉

5月12日(土) 17:00～18:20

F会場(4209)

失語症者の「話せるようになりたい」という願いは本当に切実なものです。けれども、重度の訓練は、教科書を参考にしているいろいろな方法を試みても難しいことが多く、STは苦しい思いをすることが多いのではないのでしょうか？本年度は、「重度非流暢型失語の基礎的発話訓練」をテーマに、発症約8ヶ月間訓練後、9ヶ月目より新たに検討した訓練方法で発話の改善をめざした事例を取り上げます。皆様と活発な意見交換をできれば幸いです。

一般演題

(口述発表)

A～C群

第1日目 5月12日(土)

A会場(1101)

遠隔 E会場(4103)

A-1

受動態の使用に困難を示した SLI 児

小林 健史¹⁾、橋本 竜作¹⁾、尾野 美奈²⁾、
玉重 詠子¹⁾、今井 智子¹⁾

1) 北海道医療大学 心理科学部 言語聴覚療法学科、
2) 北海道医療大学病院 言語聴覚治療室

【はじめに】受動態の使用の困難に気づかれた女兒について検討したので報告する。

【事例】右利き女兒13歳9か月(中学校2年生)。発達歴：出生体重2,569g、在胎週数38週。初語は24カ月。健診でことばの遅れの指摘はなかった。運動発達に遅れはない。5歳頃になり母親がことばの遅れを気にして、通園センターに相談するも、特に言語発達障害に対する治療や訓練は実施されていなかった。就学前には言語の問題はないと判断され、通常学級にて教育を受けている。現症：本人は小学校1年生から話しぶりを自覚しており、中学校2年時に近医を受診。聴覚に問題はなく、吃音の疑いで本院の音声言語外来に紹介。主訴は友だちと話すとき、うまく話せない。

【検査所見】吃音検査は異常なし。WISC-Ⅲの言語性IQは76、動作性IQは87と、知能は正常範囲内。ITPAでは「ことばの表現」「文の構成」などで、言語学習年齢が5歳台と低下。ADHD RS-IV-Jは1点、自閉症スペクトラム指数は15点。検査中の反応から格助詞と受動態の使用に誤りが見られた。

【掘り下げ検査】「男が女を押している」といった動作絵40枚を用意し、受動態表現の表出課題を以下の方法で行った。斉藤(2002)に従い、主格「男の子が」を提示し文を完成させる方法(斉藤方式)と、「女の子の気持ちになって」と教示し絵の説明を求める方法(共感方式)とで、受動態の誘発を行った。

【結果】正しく受動態で言えたのは斉藤方式で24枚、共感方式は33枚であった。斉藤方式では能動態で表現して誤ることが多かった。

【考察】斉藤方式に比べ共感方式でより受動態を表出できることから、本児は受動態を表出する潜在的な能力はあるが、それを自由に使いこなせないと考えられた。受動態表現は、話者の視点・共感が動作主よりもその動作の対象の方にある場合に使用される。本児の主訴の一部には友だちとの会話で相手に共感を示した受動態表現を自由に使えないことがあるのかもしれない。

A-2

ことばに遅れを示す幼児の語彙理解・表出に関する評価と語彙学習指導

辰巳 朝子¹⁾、大伴 潔²⁾

1) 島田療育センター リハビリテーション部
言語聴覚療学科、
2) 東京学芸大学 教育実践研究支援センター

【目的】言語発達に遅れのある子どもにおいては、言語の基礎が築かれる幼児期に、語彙の拡大や言語表出を促すための指導が必要とされるが、どのような言語指導が有効かについて十分な検討はされていない。言語について言語を用いて思考するメタ言語的アプローチは、語の意味的なネットワークの獲得を促し、適切な語の使用を促す可能性がある(大伴、2011)。本研究では、語のカテゴリー分類、カテゴリー名の理解と表出、語の説明について、発達障がい疑われる幼児を対象に評価し、指導方法を検討した。

【方法】知的障害、広汎性発達障害、注意欠陥・多動性障害など発達障がい疑われる年少から年長児15名を対象に、物品が描かれた絵カードを用い評価を行い、評価に基づいた指導を行った。1) 名称の表出と理解、2) 物品の定義の表出、3) 絵カードのカテゴリー分類、4) カテゴリーの表出と理解を評価した。カテゴリーは、乗り物・動物・果物・野菜・調理器具(料理をする道具)・食器・文房具・楽器の8種類で、各カテゴリーには5種類以上の名称が含まれた。例えば、乗り物は飛行機や自転車など、文房具にはクレヨン、鉛筆などである。研究参加児は有意味語の理解と表出が可能で、生活年齢は、3歳から6歳、IQ49以上の15名であり、絵画語い発達検査(PVT-R)により測定された語彙年齢が、3歳未満の児も含まれる。語彙学習指導として、絵カードのカテゴリー分類・カテゴリ及び名称の表出と理解を促す活動、カテゴリーを用いて語を説明する活動を約4ヶ月間行った。

【結果と考察】研究参加児のIQと分類課題の正答率に有意な相関が認められた。また、名称の表出とカテゴリーとの間にも有意な相関が認められた。評価結果に基づき、カテゴリー分類、カテゴリー・名称の表出と理解、語の説明と理解などに関する指導を実施した。指導による学習や改善が見られ、カテゴリーに着目した指導の有効性が示唆された。

A-3

言語発達に遅れを示す児の要求行動 — 経時的变化 —

井上 理絵¹⁾、井上 勝夫²⁾、櫛田 弘美¹⁾、
大沼 幸恵¹⁾、阿曾 寛子¹⁾、石田 宏代³⁾

- 1) 北里大学病院 耳鼻咽喉科、
- 2) 北里大学 医学部 精神科学、
- 3) 中川の郷 療育センター

【はじめに】北里大学病院では2008年から小児の要求手段に関する臨床研究を開始し、これまでにことばの遅れを主訴に受診した児の初診時の要求手段を横断的に調査した。2010年の本学会で、「対象児では、物を渡す・手さし・指さし等の要求手段は重複使用され、単語理解が可となる頃から手さしによる要求は減少し、90%以上の対象に指さしが出現した。対象児ではクレーンは発達段階や自閉症と無関係に出現した。」と報告した。今回、先の臨床研究で前言語期段階だった小児で、経時的に追跡した事例の言語発達と要求表現の変化を調査し、横断的調査で得た知見を再検討したので報告する。

【対象】ST 初診時に前言語期段階で、追跡中に言語理解・表出が見られた8例。平均初診月齢は30±4ヵ月、追跡期間は12±9ヵ月。

【方法】追跡期間中の訓練場面での、対象の手さし・指さし・単語・クレーン等の要求手段と、言語発達を比較検討した。

【結果】

- (1) 言語発達：追跡期間中、対象の7例に名詞の理解が見られ、そのうち4例は動詞の理解も見られた。1例は名詞の表出のみ見られた。
- (2) 要求手段：言語理解が前言語、名詞、動詞と進むにつれ、手さしを使用した対象の割合は100%、86%、75%と減少した。指さしの使用は0%、71%、75%と割合が増加した。単語での要求の割合も0%、14%、50%と増加した。クレーンは13%、43%、25%と使用割合の増減に傾向はなかった。

【考察】要求手段の重複使用、クレーンは発達段階と無関係に出現することは横断調査の結果と一致した。言語理解が進むと手さしが減り、指さしが増えるが、単語理解が可となった時期の指さしの出現率は、横断調査時は90%以上、本調査では71%だった。本調査では一律に名詞・動詞の理解が初めて可となった訓練日の要求手段を検討した。一方、横断調査では文理解への移行期の児も含まれた。そのため、横断調査時の対象の方が言語理解の段階が高い児が含まれており、指さしの出現率が高かったと考える。

A-4

発達相談機関における食事支援について — 療育グループ在籍児の 保護者アンケートの結果から —

須賀 多恵子¹⁾、小俣 清香²⁾、中田 梨紗子³⁾、
佐藤 久美子⁴⁾、寺田 美智子^{4,5)}

- 1) 相模原市中央こども家庭相談課 療育相談班、
- 2) 相模原市南こども家庭相談課 療育相談班、
- 3) 相模原市緑こども家庭相談課 療育相談班、
- 4) 相模原市立療育センター陽光園、
- 5) ESPA 有限責任事業組合

【はじめに】障害(疑い)児にとって乳幼児期は、親子関係や主体性を育てる重要な時期である。その時期、食事に対する保護者の不安や負担を軽減することは、食事のリスクや誤学習への早期対応だけでなく、良好な親子関係を育て、言語やコミュニケーションの発達を促す上でも重要と考える。現状では、運動障害やダウン症等は早期から食事支援の機会があるが、発達障害(疑い)児などの食事の問題は、親が強く心配感を訴えて初めて支援の対象となることが多い。今回、療育の入口である発達相談機関での食事支援を考えるため、当班の療育グループ在籍児の保護者にアンケートを実施した。

【目的】①保護者の食事への心配の内容とその相談先を知る。②発達相談機関に求められる食事支援を検討する。

【方法】当班の療育グループ(月1~2回、1回90分、食事なし)在籍児の保護者に選択式のアンケートを実施。180名の回答結果を運動障害児(1~4才、25名)をA群、精神発達遅滞や発達障害(疑い)児では、未就園児(2~4才、37名)をB群、幼稚園または保育園在籍児(3~6才、118名)をC群として検討。

【結果】回答者180名の約9割が心配な項目を2つ以上挙げていた。心配の内容は、A群は摂食機能、B・C群は行動面に関することが多い。栄養面では、A群は体重が増えない、B・C群は偏食が目立った。3群とも食具使用に関する心配が挙がっていた。相談先は、A群は医師や当班職員、B群は夫婦間や当班職員、C群は夫婦間や幼稚園等の先生が多い。

【考察】多くの保護者が食事に複数の心配を持っており、内容は育児相談レベルから医療と連携して対応した方がよいものまで幅広い。食事を機能の側面からだけでなく、発達を促すための貴重な一場面と捉え、支援頻度が少ない発達相談機関でも他職種が連携して情報提供や相談を充実させることが、その後の療育を円滑に進めるためにも重要と考える。

第38回日本コミュニケーション障害学会学術講演会を開催するにあたり、多くの皆様からのご協力を頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。

〈協 賛〉

医療法人 杏仁会 松尾内科病院
医療法人 光臨会 荒木脳神経外科病院
医療法人社団 清風会 五日市記念病院・廿日市記念病院
医療法人社団 明和会 大野浦病院
医療法人 大慈会 三原病院
因島医師会病院
財団法人 操風会 岡山リハビリテーション病院
社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院

〈書籍・企業展示〉

(株)エスコアール
(有)追坂電子機器
(株)学苑社
(株)ジェイ・エム・エス
(株)神陵文庫
(株)ティーアンドケー

〈後 援〉

日本言語聴覚士協会
広島県 医師会
広島県看護協会
広島県教育委員会
広島県言語聴覚士会
広島県作業療法士会
広島県歯科医師会
広島県社会福祉士会
広島県理学療法士会
広島県臨床心理士会

(50音順)

第38回 日本コミュニケーション障害学会学術講演会
予稿集

2012年4月3日発行

発行者：第38回日本コミュニケーション障害学会学術講演会会長
吉畑 博代

事務局：〒723-0053 広島県三原市学園町1丁目1番地
県立広島大学 保健福祉学部 コミュニケーション障害学科 内
FAX：0848-60-1134
E-mail：jacd38mihara@yahoo.co.jp

出版： 学術集会専門出版社
株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025